深田久弥
山の文化館だより
平成28年
夏号

深田久弥　山の文化館
〒九二一―〇〇六七
石川県加賀市大聖寺番場町十八
TEL（〇七六二）七二―三三一三
FAX（〇七六二）七二―一一八一

富士写ヶ岳に新方位盤
標高942メートル

八月十一日の「山の日」を記念して富士写ヶ岳の山頂に、深田久弥を顕彰する方位盤が設置され、八月七日（日）山頂で除幕式が行われた。この日早朝より山岳七団体でつくる「山の日記念事業実行委員会」のメンバー八人が、十五キロの銅製の方位盤を、交代で担ぎ上げた。設置済みの台座は重さ八百キロ、高さ八十センチの御影石製で、正面には深田久弥の写真が刻んであり、その下に「深田久弥　日本百名山著者」の文字が刻まれている。

この山は深田久弥の著書『名もなき山』に記されているように、深田久弥の登山の第一歩となった山である。

十四・五年前から壊れていた方位盤を、昨年十二月に担ぎ降ろし、修理を試みたが修復困難であったことから、今回方位盤の新設という事になった。石川県山岳協会、石川県勤労者山岳連盟、山中山岳会をはじめ地元山岳会など七団体が実行委員会を結成し、広く山岳愛好家に呼びかけたところ、多くの賛同を得てこの日の完成にこぎつけた。ここ富士写ヶ岳に実行委員会関係者や山岳愛好家らが大勢集いこの日を迎えられたことは本当に慶ばしいことであった。

これを機に今まで無かった富士写ヶ岳のパンフレットが作成された。このパンフレットは山の紹介だけではなく、深田久弥と山の文化館、加賀の温泉地や周辺の見どころなども紹介されている。富士写ヶ岳をはじめ周辺の観光地に多くの人が訪れることを期待したい。パンフレットは、深田久弥山の文化館にも置いてありますのでご希望の方はお立ち寄り下さい。

投稿コーナー

銀杏（いちょう）の四季

ある山行

～久弥さんの母方の墓を訪ねて～

ある冬の晴れた日、我々は、久弥さんが良く登った、文殊山の本堂横から、白く輝く白山を眺めていた。コーヒーを飲みながらの白山の眺めは格別である。それだけでも登ってきた価値は十分にあるのだが、今日は下山してからも大きな目的があるのだ。それは西大味（にしおおみ）のお寺にあるお墓を訪ねることである。

事の始まりは以前から一つの墓を探していたAさんが、「見つけましたよ」と言って、嬉しそうに尋ねてきたことからであった。

深田久弥に深い思い入れのあるAさんは、『山頂の憩い』の中にある「日野山と木の芽峠」と言う一文のある一節に目をとめ行動を起こした。それは「祖母は気丈で信心深かった。その墓参りをしたかったのである。・・・・・」と言うくだりである。何度かの探査行の末見つけたわけである。

そこで、お墓参りが決定した。（我々は、お墓参りと言うよりはお墓見学と言うべきなのかもしれないが。）久弥さんは、味真野（あじまの）探訪と墓参と日野山登山であったが、我々一行は文殊山登山とお墓参りと相成った。

そのお墓は、本に書かれているように、つつましやかなものだった。寺の墓地の奥の斜面にひっそりと建っていた。古びてはいたが大味屋と言う屋号ははっきりと読み取ることが出来た。山あいの墓の前で静かに手を合わせた。

［地図］国土地理院二万五千分の一

福井、永平寺、鯖江、河和田

（Y・O）

文殊山より白山を望む

聞こう会予定

■十一月二十日

「深田久弥の足跡探訪」

講師　高辻　謙輔

■平成二十九年二月十九日

「加賀茶の歴史と取り組み」

講師　吉田　和雄

山の文化館便り第一号をお届けします。

まだ十分な内容ではありませんが、回を重ねるごとに進化できれば、と考えています。深田久弥山の文化館の様子が伝わるものにすべく努力していこうと思っています。

読まれた皆様のご意見、ご要望をお聞かせください。また、投稿コーナーへの多くのご投稿をお待ちしています。

田中陽希講演会　「日本百名山ひと筆書き」

と　き／10月9日（日）14時～
ところ／市民会館3階大ホール
申込締切／9月15日　＊当日消印有効

深田久弥の著書「日本百名山」に選定された山々をひと筆書きでつなぎ、自分の力で歩いて登頂するという「日本百名山ひと筆書き」プロジェクトを達成した田中陽希さんの講演会です。

■申込方法　往復はがきで応募。下記の内容を記入

（表面）往信の宛名：〒922-0067　加賀市大聖寺番場町18の2
深田久弥山の文化館
返信はがきの裏面：記入しない

（裏面）返信の宛名：発送先の住所・氏名
往信はがきの裏面：①郵便番号、②住所、③氏名・年齢、④電話番号

※2人まで応募可　※希望者多数の場合は抽選